Welwalk
トヨタ自動車株式会社　2022年7月発行（第42号）

ウェルウォーク通信

～【WW研究会：患者様との特別対談】を終えて～

日頃は、ウェルウォーク（以下、WW）をご愛顧頂きまして誠に有難うございます。
今回は、第13回WW研究会特別企画『患者様との対談』を終えた後も、情報共有会にて熱く患者様と語られていた洛西シミズ病院の永井先生にお話を聞く機会を頂きましたので、ご紹介します。　（洛西シミズ病院　永井先生　ご承諾済み）

患者様との特別対談

浦田聖己様　×　トヨタ自動車 今井田室長

何を言われても、絶望感しかなかった!!!　正直、もう歩く事は、諦めていたので、早く家に帰りたかった。でも私を信じて助けてくれた先生方のお陰で・・・

＊以下、永井先生とのお話の内容を紹介させて頂きます。
お話いただいたお言葉を、そのまま掲載させて頂いております。

研究会に参加して

永井先生

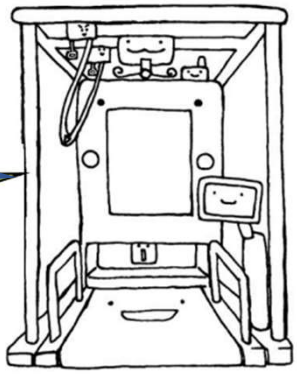
・コテコテ関西人
・理学療法士 3年目
・話し出したら止まらない
・大のサッカー好き

患者様のリアルな声を聞いて
①なかなか前向きになれない患者様の本音
②患者様の信頼を得る難しさ
③諦めないセラピストの仲間
全てが刺激的だった!!!

永井先生も患者様との接し方には課題意識を持たれているとの事ですが、日常の臨床業務の中では、特にどういった点に気をつけて実施されていますか？

これまで臨床場面では歩けるようになったり踏ん張りが効くようになっているのに、なかなか良くなっている実感が湧かない患者さんが多く、更なるリハビリ意欲の向上に思うように繋がらない場面が多いと感じていました。その点、WWはその状態を段階的に数値化してくれますので、その場での口頭や視覚的なフィードバック（以下、FB）に加えて、数値自体を伝えることで目標が明確になったり、『数値が小さくなることで良くなっているという実感がある』とおっしゃって頂ける患者さんが多い感じがあります。それが、その後のリハビリテーションに対するモチベーションにも繋がってきていると思っており、僕は単なるFBだけでなく、数値までしっかりと患者さん本人と共有するように心掛けています。

患者様の信頼を勝ち取るために工夫されていることがあれば、是非ご紹介ください



教科書上では、全てを説明＆同意がスタンダードですが、あえて説明の数は少なくして、恐怖感を与えたり身構えたりしないように、患者さんのキャラクターによっても少しずつ変えています。特に大切なのは、患者様が初めてWW練習を行う際は、“いかに『No』と言わせないか？”というところもセラピストとしては意識しています。

正直、患者さんはネガティブになることが多い為、僕たちも心が折れそうになることもしばしばあります。しかし、セラピストがあきらめては、そこで全てが終わってしまいます。
患者様の立場で寄り添い続けることが最も大切だと思っています。

最後に、
今後の抱負をお聞かせください

＜臨床中の永井先生＞

今回の対談を通じて、特に感じたのは、
やはりWWは治療のツールとして動かない身体は動かしてくれるが、なかなか人の心までは動かせないという事です。

WWもひとつのツールでしかなくて、患者さんの心を動かすのは僕たちセラピストの想い以外の何ものでもない！
ココロを動かすのは、やっぱり最終的にはセラピストの強みです。

それは今後、更にロボットリハビリテーションやAI技術が進化、発展しても変わらない部分だと思います。今後もWWという最強の武器を使いこなして、一人でも多くの患者さんのカラダだけでなく、ココロも動かせるセラピストでありたいと思います。

『 ウェルウォーク×セラピストの想い
⇒　最高のリハビリテーションを提供！ 』

皆様からのご感想をお待ちしています。

WW 臨床・運用相談窓口〈clinical-ww@mail.toyota.co.jp〉